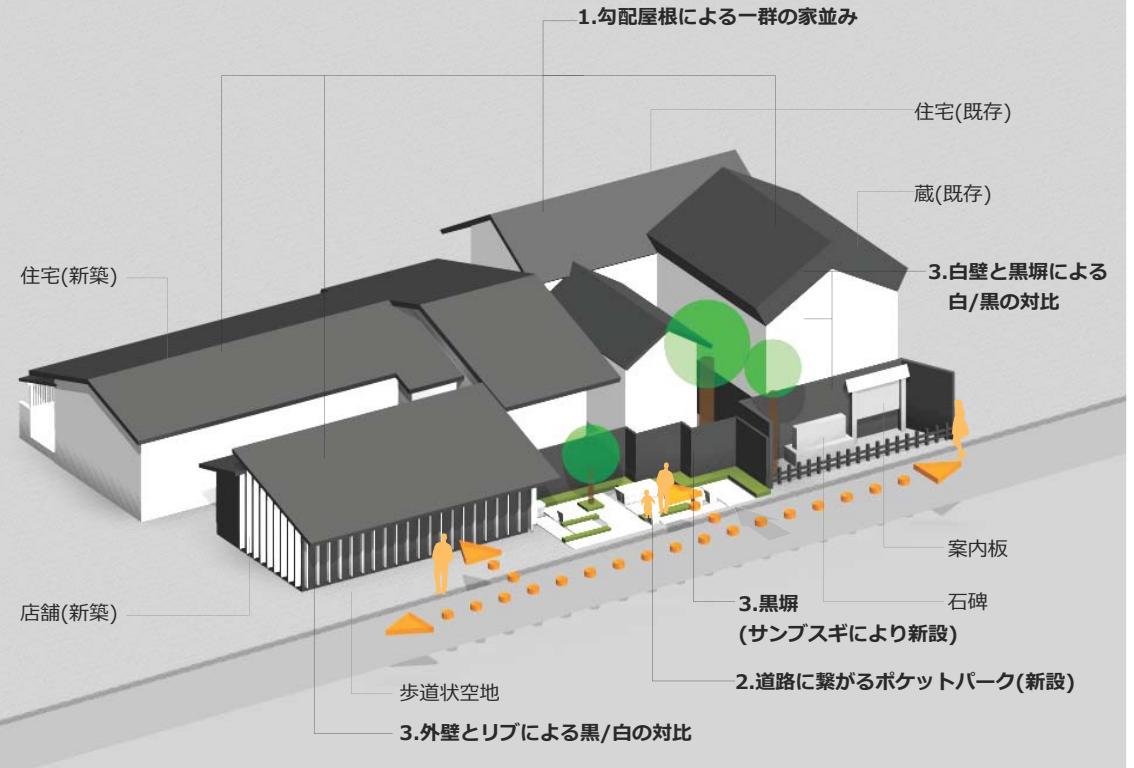




全体構成図



## 「歴史をつなぎ、まちへひらく」

### 1.勾配屋根による一群の家並みの形成

敷地内の既存建物（土蔵、住宅）は全て和風の勾配屋根を有するため、新築住宅、新築店舗とも平屋建てとし勾配屋根を設け、土蔵、既存住宅、新築住宅、新築店舗と高さの序列を設けることにより、勾配屋根による一群の家並みをつくりだした。特に店舗部分は平入りの軒先を低く抑え、街道に面する商家のように道路との一体感を持たせると同時に、道路に妻面を向ける蔵と対照的な印象とした。

### 2.道路上に繋がるポケットパークの新設

店舗と既存土蔵の間に道路に接して和風のポケットパークを設け、道行く地元の人々や観光客に開放している。石材は全て既存建物の礎石、束石、石壁の間知石など、敷地内にあったものを継承している。築140年の既存民家の屋根瓦は植栽の縁石として次代に残された。樹木についても敷地内にあった既存樹木を根回して移植している。道路や店舗からも段差はなくこの小路の歩道的な役割を果たし、夜間は照明器具での明るくライトアップし、まちの風景とセキュリティに一役買っている。

### 3.歴史をとらえた色彩表現と地産材の使用

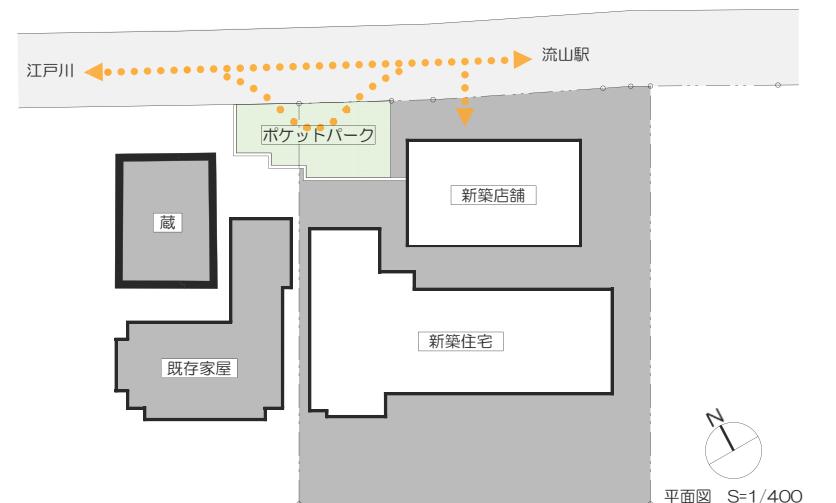
築180年余の土蔵の塗壁部分を白く、木部および鉄部を黒く再塗装し蔵らしいコントラストを再現した。新築店舗の外壁は黒い左官仕上げの上に無垢板の方立て逆転したコントラストとし、既存の黒塀に合わせた新築の黒塀で二つの対比を繋いだ。ここでは地元のサンブスギが使われている。明快なコントラストはこの地に縁ある新撰組の半纏のイメージでもあり、新築住宅の外壁を白色系とすることで更に展開させている。

老朽化のため解体した築140年の既存家屋の構造材は新築の中で上がり框や仕上げ材として再利用されている。中でも十寸角の大黒柱は新築店舗の酒棚の主材として多くの人の目に触れる形で残している。

また新築部分の仕上げは新材であっても職人の手作業を要するものとし、時間の流れを受け止め、経年変化を味わえる表現とした。

### 4.ちょうど良いサイズ

この小広場は建築主の好意により一般開放されており、よって建築主自らが管理をしなければならない。長期間にわたって維持管理が続けられるように、自分で手入れができる樹木・植栽とし、水を流すだけで清掃と水やりが同時にできるような仕上げとした。管理者にとって適正な規模であるということは、同時にポケットパークとしてヒューマンスケールを持ち、人々が「一休み」するのに「ちょうど良いサイズ」の心地よい空間となっている。



## 建築作品部門

### まちづくり全般

千葉県 流山市  
秋元邸・秋元酒店

### <店舗と住宅の新築に伴う、蔵の修繕とポケットパークの新設>

流山は江戸時代から江戸川航路の集散地として商家が立ち並び栄えた一帯であり、今でも特産である白みりんの醸造地として知られている。また幕末には新撰組の近藤勇が最後の陣を引き、土方歳三との永遠の別離の地となつたことでも有名である。本計画の敷地はその陣屋跡とされる場所にあたり、現在も流鉄流山線の流山駅から流山街道を渡り旧道、江戸川へと抜ける主動線的小道に面しているため、石碑を訪れる観光客の散策する姿が多く見られる。

流山市は市内の歴史的観光要素を継承する施策を取り、市民も「見世蔵」などの工夫と努力を行い民間のNPO団体も「北総新撰組」などの観光振興を続けており今後、街・建築・人の営みが一体となったまちづくりが期待される。

そのような環境において本計画では建築が敷地内で完結するのではなく街に開き、多くの人々に日常的に利用されるよう下記のような試みを行った。

**【歴史をつなぐ】** : 家並みの継承と展開 : 解体材料の再利用  
**【まちへひらく】** : ヒューマンスケールの人溜まり空間の創出 : 地元材の利用  
**【環境と持続性】** : 雨水の敷地内浸透 : バリアフリー : 適正な施設規模



応募代表者:高階 澄人

高階澄人建築事務所

1984-1993 芦原建築設計研究所勤務  
1993-1995 Pratt Institute N.Y.に留学 建築学修士取得  
1994-1995 Steven Holl Architects N.Y. 勤務  
1995-1997 芦原太郎建築事務所勤務  
2001 有限会社高階澄人建築事務所設立

建築物はもとより、建築によってたらされる環境は、その場における様々な社会的な営みのための器である、と私共は考えています。社会構造がより複雑になり、地球規模での環境変化にも直面することとなつた現代においては、時代を超えて人々の多様な生活の自由度の担保と、豊かな生活を維持するためのレジリエントな「環境の骨格」を提案し、同時に建築が環境に対して与える多大な影響をコントロールすることを使命と考えています。